

論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 ( 教育学 )	氏名 Author	EDIYANTO
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論文題目 Title of Dissertation The Development of an Instrument to Measure Indonesian Teachers' Attitudes toward Inclusive Education			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科	教授	川合 紀宗 印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授	清水 欽也
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授	石田 洋子
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	中矢 礼美
審査委員 Committee	広島大学大学院総合科学研究科	准教授	山根 典子
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>インクルーシブ教育が世界で展開されているが、インドネシアの公教育においてもその機運が高まっている。本研究の目的は、インドネシアの教員のインクルーシブ教育に対する態度を測定するための信頼性、妥当性のある尺度 (ITAIE スケール) を開発し、有用性を確認することであった。欧米向けの同様の態度尺度は多く開発されているが、インドネシアではこうした態度尺度は開発されておらず、そこに本研究の独自性がある。</p> <p>論文は全 5 章で構成されている。第 1 章において問題の所在と本研究の目的、研究設問、仮説等について述べた。第 2 章では、本研究で重要となるインクルーシブ教育や障害のある児童生徒に対する教員の態度に関する先行研究のレビューを行い、インドネシアや他国におけるインクルーシブ教育に対する教員の態度やその態度を測定する尺度の開発に関する研究の内容を整理した。第 3 章では、本研究の柱となる手法である <b>Research and Development Model</b> についての説明や、インクルーシブ教育に対する態度を測定する尺度開発に関する意義と問題点について述べた後、本研究で開発する態度尺度 (ITAIE スケール) の開発プロセスについて、研究協力者のプロフィールや、妥当性・信頼性検証の手続きについて記述した。第 4 章では、信頼性や妥当性の検証結果について述べた上で、実際にインドネシアの教員に対して ITAIE スケールを実施した結果についても述べた。第 5 章では、結果を踏まえて総括的考察を行った。その結果、ITAIE スケールは、一定の信頼性と妥当性を保っていることが明らかにされた。限界点として、インドネシアの限られた地域でしかサンプリングがなされなかったこと、項目を選定する際、文化的背景を考慮しつつも、欧米向けの態度尺度の項目を多く採用する傾向があったこと等が挙げられた。</p> <p>本論文は、以下の 2 点が独創性の高い点として評価された。(1)インドネシアの文化的背景等を考慮した尺度を開発したこと、(2)インドネシアにおけるインクルーシブ教育に対する教員の態度の現状及びそれに基づく今後の課題を明らかにしたことある。</p> <p>なお、申請者はこれまで、査読付学術論文 3 編、査読無学術論文 1 編、国際会議発表 3 編を公表した。以上、審査の結果、本論文の著者は博士 (教育学) の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			